

大規模農業者のニーズに対応したきめ細かな支援

そお鹿児島農協(鹿児島県)

取組の概要

- 大規模農業者のニーズに対応したきめ細かな支援を行うため、専任担当者を設置し、直接農業者を訪問することで、農業者の意見を集約。
- 農業法人等の組合員組織の設立を支援し、その育成に農協が積極的に関わることで、法人化後も利用される組織に。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 大規模農業者の育成・支援

農協管内の農業者の高齢化が進む中、経営規模を拡大している大規模農業者の育成・支援を行うことにより地域農業の振興を図ることを目的として、平成10(1998)年に農家対策特別班(TAF:トータルアドバイザー・ふれあい)を設置した。

育成・支援の対象となる担い手農業者を約1,000戸リストアップしてアンケートを実施したところ、「農協職員の訪問が少ない」といった不満が明らかとなったので、各支所に1人ずつ配置されたTAF職員が直接農業者を訪問し、農業者の意見を聞き取り、農協のトップ層に報告。農業者の生の声をぶつけることで、役職員の意識改革の促進にもつながっている。

2 農業法人の支援の強化

農業法人と今後法人化を考えている農業者に対する支援強化を目的として、平成22(2010)年に農業法人等の組合員組織「にじの会」の設立支援を行った(平成30(2018)年2月末現在加入経営体数37戸)。そこでは、農業法人から聞き取った要望を元に、TAF職員による販売提案、研修の提案、ICTを活用したサービスの提案などを実施。具体的には、

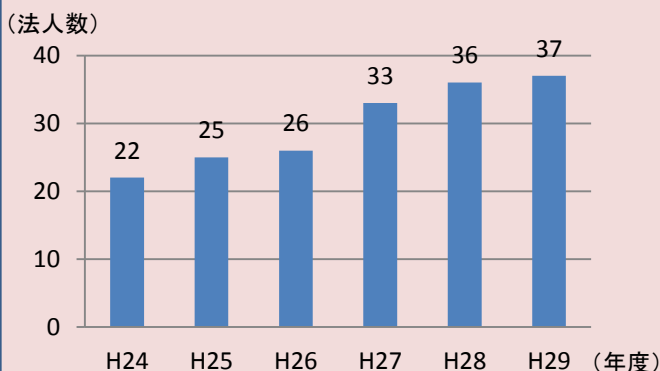
- ・ 法人の全体会議のほかに、個別協議の場を設置。個別協議では、前年度の販売・購買実績の分析や営農指導員による販売・購買の提案、情報交換を実施。
- ・ 農協の持つノウハウを活かし、法人従業員向けに栽培技術・農薬防除等の研修会を実施。
- ・ 経営内容の見える化や作業履歴を管理する農業生産管理システムの提案・導入支援を実施(平成30(2018)年2月末現在導入経営体数8戸)。

また、農協で仕入れる肥料、農薬等の生産資材の品目数を限定し大型規格にすることでコストを削減した分、大口需要者への割引を実施し、農業法人等からの購入を促進。この結果、購買実績における「にじの会」のシェアは年々拡大している。

農協のメリット・農家のメリット

<にじの会の会員数の推移>

- にじの会に加入する法人数は年々増加。



<農協の事業におけるにじの会のシェアの推移>

- 法人による農協事業の利用シェアは上昇。

